

大じょうぶだよ、そらくん

神村学園初等部 四年

八 田 大 愛

「そらくん、大じょうぶ。」

と、ぼくはよく、弟に聞きます。ぼくだけではなく、家族みんなが弟に聞きます。

ぼくには、二さい年下の弟のそらくんがいます。体がとっても弱くてあぶない、そらくんです。どうしてかというところ、食べ物のアレルギーとぜんそくをもっているからです。だから、「大じょうぶ。」と聞く言葉は、ぼくたち家族の合言葉になっています。

そらくんは、さっきまで元気だったのに、急にぜんそくで苦しくなったり、はいてしまったりすることがあります。いつもは食べても大じょうぶな食べ物、食べられなくなる時もあります。この時もぼくたち家族は、

「そらくん大じょうぶ。」

と聞きます。そらくんは、自分の体のことを分かっていて、ちゃんと話してくれます。大じょうぶな時は、

「大じょうぶだよ。」

と言うし、体がつらくて食べない方がいいと思ったときは、

「今日はやめておく。」

と、言います。ぜんそくが出て苦しい時は、「いきが苦しいよ。」

と、教えてくれます。自分の体のことを伝えられるそらくんは、りっぱだと思います。

父や母が仕事に行っている間、ぼくがそらくんのめんどうをみます。正直にいうと、めんどうをみるのはいやです。そらくんは、ぼくのいうことをちっとも聞かないし、物に対して、らんぼうにしたりするからです。そんなそらくんが、一つだけぼくのいうことを聞いてくれる時があります。それは、

「これは、食べたらだめだよ。」

という言葉です。これだけは、必ず一回で聞いてくれます。そらくんも心配な時は、

「これ、食べられるかな。」

と、ぼくに聞いてくれます。その時は、ぼくがその食べ物成分表を読んで、かくにんをします。ぼくも分からない時は、母に電話をしてかくにんをします。

ぼくには、食べ物アレルギーもないし、ぜんそくもありません。好きな物は何でも食べられるし、ぜんそくの息苦しさも分かりません。だから、そらくんの本当の苦しさを大

変さは分かりません。

少しでもそらくんを助けられるように、ぼくは一九番の電話の仕方を覚えました。自分の家の住所も、伝えられるようになりました。あつてほしくない「もしも」だけれど、ぼくができるようになったら、苦しんでいるそらくんを、少しでも早く助けてあげられるかもしれない。漢字もたくさん読めるようになってきたので、食べ物の成分表をしっかりと読んで、

「そらくん、大じょうぶだよ。」

と言って、安心させてあげられるかっこいいお兄ちゃんになりたいです。